

キヤノン製 EOS デジタル一眼レフカメラ用 ニコン製 デジタル一眼レフカメラ用 ソニー製 デジタルカメラ用

共通取扱説明書

キヤノン用とニコン用とソニー用 3タイプ共通の取扱説明書です。Di600自体は、キヤノン用、ニコン用、ソニー用はそれぞれ個別の製品です。

ニッシン製品をお買い上げいただき 誠にありがとうございます。

ご使用にあたっては、この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いいただきますようお願いいたします。
また、カメラの操作・機能に関しましては、ご使用になるカメラの取扱説明書をご参照ください。

Di600 は、デジタル一眼レフカメラの最新デジタル TTL 方式に対応するデジタルストロボです。キヤノン製デジタル一眼レフカメラにはキヤノン用を、ニコン製デジタル一眼レフカメラにはニコン用を、ソニー製デジタル一眼レフカメラにはソニー用を取り付けてご使用ください。
本機をカメラに装着するだけで、カメラからの通信により自動的に光をコントロールすることができます。また、本機はスレーブおよびワイヤレス TTL リモートを搭載しており、カメラから離れた場所でシンクロさせることができ、ライティングの幅を大きく広げることができます。

安全上のご注意 ■必ずお守りください。

ご使用になる人や他人への危害、財産への損害を未然に防止する為、お守り頂くことの説明をしています。よくお読みになり取扱いにご注意ください。

- 警告** この表示を無視して誤った取り扱いをすると、感電したり、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。必ずお守りください。
- 注意** この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容、および物的損害の発生が想定される内容を示しています。必ずお守りください。

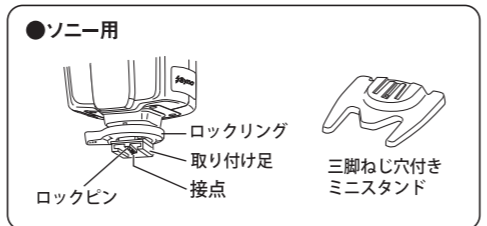
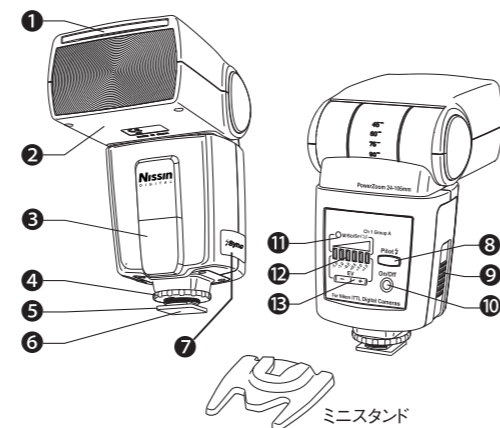
- 警告**
 - 本機は高電圧の部品を使用していますので、絶対に分解しないでください。修理の場合は、弊社サービスステーションかまたは、ご購入されたお店にお持ちください。
 - 落としたり、破損したりした場合、または機器の中に物体が落ち込んだ場合には、絶対に露出部分に触れないでください。
 - 人の目の前（特に乳幼児）に近づけて発光しないでください。目の近くで発光させると、視力障害を起こす危険性があります。特に乳幼児を撮影する場合は1m以上離れてください。
 - コップ、化粧品、薬品の入った容器のそばで使用しないでください。こぼれたり、機器の中に入った場合は、火災、感電または傷害の原因になります。
 - 本機は防水ではないので、雨が降る場所や、湿度の高い場所に置かないでください。
 - 自動車など40℃を超えるような高温になる場所に放置しないでください。
 - 可燃性ガスおよび爆発性ガスなどが大気中に存在する恐れがある場所で使用しないでください。

- 注意**
 - 電池を高熱にさらさないでください。
 - 乾電池は充電しないでください。
 - 不安定な場所で本機を使用しないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下したりすることにより怪我の原因となる場合があります。

- その他の注意**
 - ベンジンやシンナー、アルコールなどで本機を拭かないでください。変色や変形の原因となります。汚れのひどいときは柔らかい布で乾拭きしてください。
 - 本機を長期間使用しない場合は、電池を抜いて保管してください。

- 対応カメラについては、弊社ホームページでご確認ください。
<http://www.nissin-japan.com>

各部名称



- ① ワイドパネル(16mm相当) / キャッチライトパネル
- ② 発光部
- ③ オートフォーカス補助光/スレーブセンサー
- ④ ロックリング
- ⑤ 取付足
- ⑥ シュー接点ピン、ロックピン
- ⑦ 外部端子
- ⑧ パイロットランプ(テスト発光ボタン)
- ⑨ 電池カバー
- ⑩ 電源ボタン
- ⑪ モード切替ボタン
(TTL→マニュアル→SD→SF→ワイヤレスTTLリモート)
- ⑫ パワーレベル表示ランプ (6 LED)
- ⑬ セレクトボタン

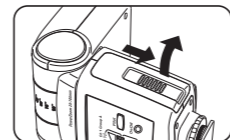
付属品: ミニスタンド

基本操作

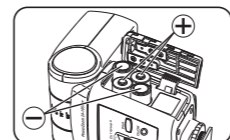
- 注意** ストロボ発光部の発熱や劣化を防止するため、連続発光は20回までに抑えてください。また、20回連続発光したあとは、10分以上休止してください。

電池の挿入

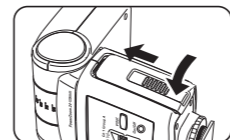
- 電池カバーを下にスライドして開きます。



- 電池ボックス内の図に従って、プラス/マイナスの向きを正しく挿入してください。



- 電池カバーを上スライドして閉めてください。



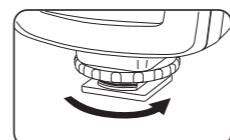
注意

- 間違った挿入を行ったり、サイズの異なる電池を入れたりすると本機が破損する恐れがあります。
- すべて同じ銘柄の新品の電池をご使用ください。電池の交換は4本同時に行ってください。
- 単3形ニッカド電池、ニッケル水素電池、リチウム電池もご使用できます。
- 使用しない時は電池を抜いて保管してください。

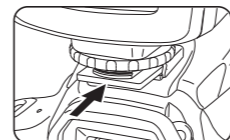
カメラへの装着

キヤノン用、ニコン用

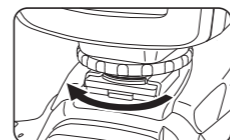
- 図のようにロックリングをまわして、緩めます。



- ロックリングを押しながらDi600の取付足をカメラのホットシューにしっかり差し込みます。

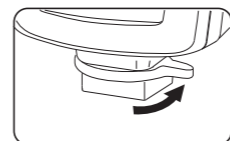


- ロックリングを図のようにまわし、カメラに固定します。

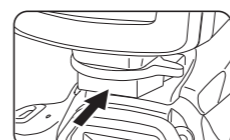


ソニー用

- ロックリングレバーを矢印の方向にまわして緩めます。



- ロックリングレバーを緩めたまま、Di600の取り付け足をカメラのホットシューにしっかり差し込みます。



- ホットシューの奥まで入ったらロックリングを戻します。ロックピンによりしっかり固定されます。



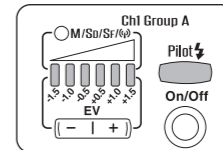
カメラから取り外す

- ロックリングを緩めて、取付足をスライドさせて取り外します。

- 注意** ●装着する前や取り外す前には、必ずDi600の電源とカメラの電源を切ってください。

ストロボの電源を入れる

- 電源ボタンを押すと電源が入ります。電源が入ると、パイロットランプが赤色に点灯します。



- 数秒後にパイロットランプが緑色に点灯すると、ストロボ撮影可能になります。

- テストのため、パイロットランプを押してテスト発光してください。
- フラッシュを使用しないときは、電源ボタンを約2秒間押しと電源が切れます。

省電力モード

電池の消費を防ぐために、カメラがオートパワーオフ状態になってから約2分後に、自動的にスタンバイモードに入ります。スタンバイモードのときは、【TTL】ランプが、2秒間隔で点滅します。Di600のボタンを操作するか、または、カメラを半押しするとスタンバイモードから復帰します。
なお、スタンバイモードに入って30分経過するとDi600は、オートパワーオフにより完全に停止します。この状態から再びDi600を起動させる場合は、電源を入れ直してください。

モードをスレープまたはワイヤレスTTLモードに設定している場合はDi600はスタンバイモードになりませんが、60分後にはオートパワーオフにより完全に停止します。

全自動撮影

キヤノン用

カメラの撮影モードが【□】、【P】、【AV】、【TV】、【M】の時に、E-TTL II / E-TTL自動調光を行うことができます。

ニコン用

カメラの撮影モードが【】(フルオート)、【P】、【A】、【S】、【M】の時に、i-TTL、i-TTL-BL自動調光を行うことができます。

ソニー用

カメラの撮影モードが【】、【P】、【A】、【S】、【M】の時に、AID / P-TTL自動調光を行うことができます。

- モード切替ボタンが点灯していないことを確認します。
- シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
- カメラのファインダー内の(フラッシュマーク)点灯を確認。
- シャッターを押すとストロボ撮影ができます。
- 焦点距離を変更すると、ストロボの照射角も連動して最適な角度に自動調整します。

参考

●ストロボの照射角について

照射角は24mm相当から105mm相当まで連動します。24mm相当より広角の焦点距離をご使用の場合は、内蔵ワイドパネル(16mm相当)をご利用ください。105mm相当より望遠側の焦点距離をご使用の場合は、105mm相当の照射角でカバーできます。
※照射角は、便宜上35mmフィルム用レンズの焦点距離を基準にしています。

●撮影距離について

ストロボを使用しても撮影画像が暗い場合は、被写体に近づいて撮影するかまたは、カメラのISO感度を上げてください。

外部端子

●シンクロ端子(左側)

市販のシンクロコード(オス/オス)により、本機とカメラのX接点を接続することができます。また、市販のスレーブユニットも接続できます。本機のモードは、M(マニュアル)にセットしてください。

●ストロボ増設用ソケット(右側)

市販の3.5mmφミニジャック付きシンクロコードを使用し、本機に、シンクロ端子付きストロボを増設できます。本機のモードは、M(マニュアル)にセットしてください。



